

# 大谷學報

第二十卷 第四號

昭和六年十二月發行

蓮如上人御文の蒐集及び

五帖御文編輯に就いて(上)

稻葉 昌九 (一)

我が國史と吐蕃との關係

寺本 婉雅 (四)

朱子の性理論(續編 遺稿)

青木 晦藏 (八四)

支那佛教の日本傳來上考ふべき諸問題

大屋 徳城 (九)

安慧造中邊分別論註釋相品虛妄分別相の餘

及び空性の梵本

山口 益 (二〇六)

救済の體驗と空の意義

稻津 紀三 (二六三)

學會彙報(八九) 新刊紹介(九三)

大谷大學

大谷學會

## 大谷學會々則

第一條 本會ヲ大谷學會ト稱シ、事務所ヲ大谷大學内ニ置ク。

第二條 本會ハ佛敎學、哲學、史學、及ビ文學ニ關スル諸般ノ研究ヲナスヲ以テ目的トス。

第三條 本會ノ會員ハ大谷大學敎職員、學生及ビ本會ノ趣旨ニ賛同スル者ヲ以テ組織ス。

第四條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ。  
一、年四回雜誌『大谷學報』ヲ發行シ之ヲ會員ニ頒ツ。

二、毎年春秋二回公開講演會ヲ開ク。

三、隨時圖書ヲ出版ス。

第五條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク。

一、會長 一名

二、理事 二名

三、委員 若干名

第六條 役員ノ職責左ノ如シ。

一、會長ハ本會ヲ代表シ、委員會ヲ總理ス。

二、理事ハ會長ヲ補佐ス。

三、委員ハ庶務、編纂、會計ノ事務ヲ分擔ス

第七條 役員ノ任期左ノ如シ。

一、會長ハ大谷大學々長ヲ以テ任ズ。

二、理事ハ大谷大學學監ヲ以テ任ズ。

三、委員ハ會長ノ指名トシ、任期ハ二年トス。

第八條 會員ハ雜誌『大谷學報』ノ配布ヲ受ケ本會主催ノ會合ニ出席スルコトヲ得。

第九條 會員ハ會費トシテ年額金參圓ヲ納ムベキモノトス。

第九條 本則ハ委員會ノ決議ニ依ルニアラザレバ變更スルコトヲ得ズ。

### 附則

一、本會ハ佛敎研究會ヲ繼承ス。

二、本會ハ本學ニ於ケル佛敎學、哲學、人文學各研究室所屬ノ研究會ヲ統合スルモノトス。

三、本則ハ昭和三年一月ヨリ實施ス。以上

## 大谷學會役員

會長 上杉 文秀

理事 朽木 廣覺 重永 潛

庶務委員 安富 成中 加藤 清

編纂委員 鈴木貞太郎 大須賀秀道 寺本 婉雅

鈴木 三七 阿部 現亮 可西 大秀

福井 元澄 南出 勇曉 雨宮 尙治

加藤 清

會計委員 吉田嘉一郎

図版Web非公開

松本文三郎博士所藏

図版Web非公開

図版Web非公開

図版Web非公開

編輯室から——次號(第十三卷第一號)は二月下旬に發行する豫定です。只遺憾に思ひましたことは、頁數の都合で、既に植字も校正も濟みながら、稻葉教授の玉稿を半分にさき、岡崎、土山兩君の原稿を次號へ廻はさねばならん様になつたことです。出筆者各員諸氏にお詫び致します。

大谷學報

四年發行

一月・四月・七月・十月

不許複製轉載

昭和六年十二月二十日印刷  
昭和六年十二月二十五日發行

(第十二卷・第四號)

會費 年額 金參圓(但前金送料共)  
一部賣 普通號 金壹圓(送料六錢)  
定價 特輯號 隨宜申シ受ク(送料六錢)

廣告料

普通頁	一頁	半頁
表紙裏	貳拾圓	拾貳圓
	參拾圓	拾七圓

編輯者 大谷學會  
發行所 重永 濱  
石代長者  
印刷者 須磨 兵衛  
印刷所 大谷大學出版部  
京都市北小膳新町西入  
京都市島丸頭大谷大學内

發行所 京都市島丸頭  
大谷大學内 大谷學會庶務部

電話西陣一六四〇番  
振替大阪六七一八五番

次 號 豫 告

蓮如上人御文の蒐集及び

五帖御文編輯に就いて(下)

三願轉入と二願分開

未 定

支那佛教の日本傳來上

考ふべき諸問題

安慧造中邊分別論註釋

障品の梵本

唯識説の宗教的意義

Conversion の研究

故青木教授遺書目録

新刊紹介 研究室彙報

稻 葉 昌 丸

大 須 賀 秀 道

原 眞 乘

大 屋 徳 城

山 口 益

稻 津 紀 三

横 川 顯 正

前 號 目 録

(十一月發刊)

「楞伽師資記」とその内容概観

認識に於ける「事」

スピノーザの神と世界—そのラ

イブニッツへの發展

生に於ける個別と一般

宗教的神祕主義の基本的概念

新因明論理に就て

デュルケーム・宗教社會

學の構想

新刊紹介 研究室彙報

鈴 木 大 拙

鈴 木 弘

立 花 勝

西 谷 啓 治

横 川 顯 正

大 友 芳 雄

福 井 元 澄